

どのような出会いにも、必ず、深い意味がある

著者は、今日まで、こうした体験を重ねてきた。
そして、いつか、一つの思いが、心に定まってきた。

「不幸な出会い」と思えるものにも、必ず、深い意味がある。

それは、ときに、自分が一人の人間として成長するための、大切な体験を与えてくれる。
そして、その真実に気がついたとき、我々の人生の「風景」が変わる。

日本語には、昔から、そのことを教えてくれる言葉がある。
例えば、「^{あらといし}荒砥石」。

「あの上司は、いま振り返れば、自分にとっての『荒砥石』だったな。
毎日、仕事のことで、ごりごりと研がれたような気がするよ。
でも、お陰で、自分という人間の^{かど}角が取れていったんだな・・・。
自分は、^が私の強い人間だったからな・・・」

著者は、若き日に、人生の先輩たちから、そういった言葉を、何度か耳にした。
そして、幸い、著者自身も、そういう「荒砥石」と思える人と出会い、その人との葛藤と格闘を通じて、自分の心の中の「小さなエゴ」に気づくことができた。そして、人間としての成長の道を歩ませて頂いた。

では、「不幸な出会い」と思えるものにも、必ず、「深い意味」があるのであれば、我々は、どのようにすれば、その「深い意味」を知ることができるのか？

そのために、我々が、必ず行うべきことがある。

その出会いに「正対」すること。

すなわち、その相手に出会ったという「事実」に、心の中で「正対」することである。
第四の技法において、人間関係がおかしくなるのは、その相手に「正対」できなくなるからであると述べた。

同様に、人生の解釈がおかしくなるのは、その事実「正対」できなくなるからである。

なぜなら、我々は、ともすれば、人生の出会いを、無意識に、「幸福な出会い」と「不幸な出会い」に分け、前者の出会いにのみ意味や価値を認め、後者の出会いには意味や価値を認めない傾向があるからだ。それゆえ、「不幸な出会い」と感じるものについては、「出会った」という事実に対せず、その意味や価値を正面から考えるということを避けてしまう。

しかし、ひとたび、我々が、その「不幸な出会い」に心で正対し、その意味や価値を見つめるならば、不思議なほど、我々の心の奥深くから「人生の解釈力」とでも呼ぶべきものが湧き上がってくる。

その「人生の解釈力」とは、人生で起こった出来事や、人生で与えられた出会いの「意味」を解釈する力のことである。

そして、もし、我々に、その「人生の解釈力」があれば、「不幸な出会い」と思えるものに対しても、先ほどの問いに、自分なりの「答え」を見出していくことができる。

この人との出会いを通じて、そして、この苦痛な体験を通じて、

いま、自分が人間として成長すべき課題は何か？

いま、何を学べと言われているのか？

いま、何を掴めと言われているのか？